



女性視点のまちづくりが始動!!

～多摩市を“空から”一望できる新たな観光体験プロジェクト

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

日本の長い歴史の中で人口増加が期待できない時代には女性が活躍して文化を創り出し消費を拡大してきた一ゼミの教員・大下先生の授業での自説(持ちネタ)です。多摩市役所もその影響もあったのか「多摩市観光まちづくりにおける女性視点を入れたチームの設置(2020年11月)」を検討、私たちがこれからのまちづくりにおいて新たな工夫のひとつである女性視点を活かした“ゆるい”まちづくりの第一歩となるイベントを企画・実践することになりました。

■「現実対比」をテーマとした新たな観光体験・SORAKARA(ソラカラ)Project

多摩市は、1960年代の多摩ニュータウンの開発に伴い、ベットタウンのイメージが強い中でも、サンリオピューロランドがあることを活かし、「ハローキティに会える街」として観光まちづくりを展開している地域です。しかし、近年はアニメの聖地として、コアな顧客層に注目され、新たな地域イメージを模索している地域でもあります。

私たちは、これからの多摩市観光を見据える中で、「現実対比」のコントラストをテーマとした新たな観光体験により集客を実現することができるのではないかと考えました。そこで、「現実対比」の典型例として、近年建設が進んでいる高い建物からの展望・眺望をまるで、アニメキャラクターやドローンのように浮遊し、“空から”見ているような観光体験を提供することができるプロジェクトとして、『SORAKARA(ソラカラ)Project』を創出しました。

■ターゲット「乙女」の誕生について

過去の多摩センターイルミネーションの来場者アンケートの結果から、女子高生や女子大生が多いということが分かり、「女子学生」を「乙女」と捉え、メインターゲットとしました。

そこで、乙女向けの企画を考える際に私たちは、乙女のイメージを考え、中学生や高校生の頃に、女子は恋バナに花を咲かせていたことを思い出し、そこから「恋愛」をテーマにした神社を作るという企画が生まれました。

さらに、乙女のイメージと、多摩センターにあるサンリオピューロランドのイメージから、パステルカラーを基調とした、「ゆめかわ」な要素を入れることで、より乙女な空間を演出しました。

■「ゆめかわ×和」で新しい空間演出に!!

SORAKARA(ソラカラ)Projectの第1弾として、2020年12月22日と23日の2日間、多摩センターイルミネーションをココリア多摩センター7階のココリアホールから全体を俯瞰するイベントを『空中散歩ツアー～ゆめかわへの誘い～』と命名しました。

空間演出としては、「ゆめかわ×和」をテーマにSNS映えするアイテムを考えました。「洋のクリスマス」と「和の縁結び」の組み合わせは、一見ミスマッチに思えますが、乙女の求める恋愛要素という点で一致していることを利用し、空間演出を行いました。具体的には、淡いピンク色に輝くゆめかわ神社の鳥居や、ツリーに飾り願いを込めるハートの絵馬、パステルカラーに光る鳥居の道などを設置しました。

今回は女性視点のまちづくりの小さな一歩かもしれませんが、多様性を認め合うまちづくりへの大きな一歩であると思います。今後の“SORAKARA(ソラカラ)Project”と“乙女プロジェクト”の第2弾、第3弾とつながっていくことを期待し見守りたいです。

(岡田美空、小沼朱音)



21階建・帝京大学のタワーからの眺望も、恰好のSORAKARA風景。都庁やスカイツリー、眼下には満開の桜が眺められます。



SNS映えを意識したアイテムの前で……想定どおりの「バシャッ」!



「ゆめかわ×和」のテーマをイメージ化した集客ポスター。鳥居・花火・和傘等を会場に配置しました!



会場のガラスに映る「ゆめかわ」と眼下のリアルなイルミネーションが一枚に……幻想的な写真も撮れました。